

# 2019.8.24-25希望創発研究会（8月例会）を実施

ホーム > 希望創発研究会 > 例会実施報告

希望創発研究会

教育研究システム

研究テーマ

研究会スケジュール

例会実施報告

参画メンバー

参画メンバー募集について

## 2019.8.24-25希望創発研究会（8月例会）を実施

公開日 2019年9月18日



8月24日（土）-25（日）希望創発研究会（8月例会）を延べ89名で実施。1日目は研究会の全9チームによる現段階でのテーマへの取り組み状況を報告する「進捗状況報告会」を行いました。報告会には、2018年度の企業参画者・学生9名の参加があり、懐かしいメンバーが集う機会にもなりました。

報告会には、後のチーム活動への有意義な意見や提案をお願いするため、地域の現場を拠点に高知県の多種多様な課題と向き合い、地域ニーズと大学シーズを結び解決に向けて取り組む3名の高知大学UBC（University Block Coordinator：高知大学地域コーディネーター）の教員の皆さんにも参加いただき、

冒頭で、活動紹介をしていただきました。



進捗状況報告会は1チーム25分（発表10分、質疑応答15分）で、4月～8月の取り組み概要・試行錯誤の様子・現状の「問い」・今後の進め方などをプレゼンテーションしました。

質疑応答の時には会場内から「継続テーマとしての悩みや乗り越えたことはあるか?」「魚食文化を守りたいモチベーションは?」「自分たちが高齢者になる将来を想定しているのか、現在の高齢者を対象にしているのか?」など発表内容を具体的に掘り下げる質問に加えて、2018年度の企業参画者から昨年度の経験を踏まえての質問がありました。

Aテーマ「持続型・安全・安定食糧生産システムの開発と高知からの発信」



Bテーマ「医療・介護分野での課題解決」

**B2 メンバー紹介**

やまざき 病院での勤務経験が、高知実業家に詳しい。高知県の歴史、手、たまたま議論の場となる。	もり 日本経済に詳しい。高知県の歴史、手、たまたま議論の場となる。	たなか 死生観も考える。高知県の歴史、手、たまたま議論の場となる。	平野尚平 議論のスピードが速い。高知県の歴史、手、たまたま議論の場となる。	なづな 経済界のスピードが速い。高知県の歴史、手、たまたま議論の場となる。
---	--------------------------------------	--------------------------------------	--	--

今年のメンバーそれぞれの「問い」

- 「この歳、本当に必要??」  
自然体が作っている事が逆に不都合な事柄の  
高知県を思い出しつつも、  
高知県自身の価値をどう評価するか?
- 「最近の世の中って何だか分からない?」  
高知県が何となく、高知県の歴史や文化が  
ない、不都合な事柄が多すぎるから、  
どうやってこの世の中を乗り越えるのか?
- 「高知県の歴史って一体何?」  
高知県の歴史って一体何? 高知県の歴史は  
高知県の歴史をどう評価するか? 高知県の歴史は  
高知県の歴史をどう評価するか? 高知県の歴史は

Cテーマ「“明日の日本の姿”を創る」

3. 龍馬モデルとは

“龍馬モデル”…自分のやりたいことに取り組みためのループ

失敗 → 成功 → 満足 → セーフティネット → 失敗

自分のやりたいこと

レザリエンス  
失敗を乗り越えて、再度でもチャレンジする  
我的能力

高知大学  
Center of Education and Research for High Potentials

**アプローチ**

口高知の善いところは???

尊重しあえる社会の実例から見えること

個人のワクワク感

社会課題の解決

出発点は社会課題ではなく個人のワクワク感  
それが結果として社会課題の解決に繋がっている

2日目は、前日の報告会に関するチーム総括の成果を他チームと共有するワークショップ「ZIGZAG（ジグザグ）」を実施。このワークショップは、各自がチームを代表して、自チームの取り組み内容のZIGZAGメンバーへの報告、ZIGZAGメンバーとの意見交換内容の自チームへの報告を通して、各自が自チームの取り組みを自分事とする機会とするためのものです。

3～4名が一組となって意見交換を行うのは初の試みで、普段話す機会が少ないメンバー同士が交流するきっかけにもなったようです。

参加者からは以下のような感想がありました。

「少人数で意見交換できたことがよかった。お互いの顔を見ながらアドバイスをもらうことができ、深くフィードバックすることができた。また、他チームの悩みや相談を聞き、自分の中でしっかり考える時間を作ることができた。もう少し時間が欲しい！と感じた。」

「少し違った目線の意見をもらうことができ、その後のグループワークにも活用されたように思う。」

次月は、それぞれが立てた「問い」の検証をするためにキャンパスを飛び出し、現場へヒアリングに向かうチームが出てきそうです。

[トップページへ戻る▶](#)

## 希望創発センター

Center of Education and Research for Hope-Emergence

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1  
国立大学法人 高知大学 学務課  
学習・研究サポート係（希望創発センター）  
TEL:088-844-8440

© 2019 高知大学希望創発センター